

3-03030-RH

CIRCUIT FOR CONSTANT-VOLTAGE POWER SUPPLY

Patent Number: JP2001209441
Publication date: 2001-08-03
Inventor(s): ENDO TOSHIO
Applicant(s): HOKURIKU ELECTRIC IND CO LTD
Requested Patent: ☐ JP2001209441
Application Number: JP20000017395 20000126
Priority Number(s):
IPC Classification: G05F1/56
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a circuit for constant-voltage power supply that can fall a power rapidly even though it has a ripple absorption condenser.

SOLUTION: When switches of S1 and S2 are 'on' in the direct current circuit 1, a npn transistor Q1 becomes 'on' and a pnp transistor Q3 becomes 'off', the lower constant-voltage-that a power supply voltage V2 is outputted from line L2. A condenser C2 installed between a line L2 and the earth eliminates output voltage ripples on the direct current circuit 1. When both switches S1 and S2 are 'off', a bias capacitor C1 discharges electricity, a transistor Q4 becomes 'on'. The npn transistor Q1 becomes 'off', at the same time, the pnp transistor Q3 becomes 'on', then the capacitor C2 discharges electric charge. These make the output voltage to fall rapidly. The continuity start time of the transistor Q4 can be decided arbitrarily by the setting of the resistance value of resistor R9 and R10.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-209441

(P2001-209441A)

(43) 公開日 平成13年8月3日 (2001.8.3)

(51) Int.Cl.⁷
G 0 5 F 1/56識別記号
3 1 0FI
G 0 5 F 1/56

テームト(参考)

3 1 0 A 5 H 4 3 0
3 1 0 H
3 1 0 N

審査請求 未請求 請求項の数 6 OL (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-17395(P2000-17395)

(22) 出願日 平成12年1月26日 (2000.1.26)

(71) 出願人 000242633

北陸電気工業株式会社

富山県上新川郡大沢野町下大久保3158番地

(72) 発明者 遠藤 寿雄

富山県上新川郡大沢野町下大久保3158番地

北陸電気工業株式会社内

(74) 代理人 100091443

弁理士 西浦 ▲嗣▼晴

Fターム(参考) 5H430 BB01 BB09 BB11 CC02 EE02

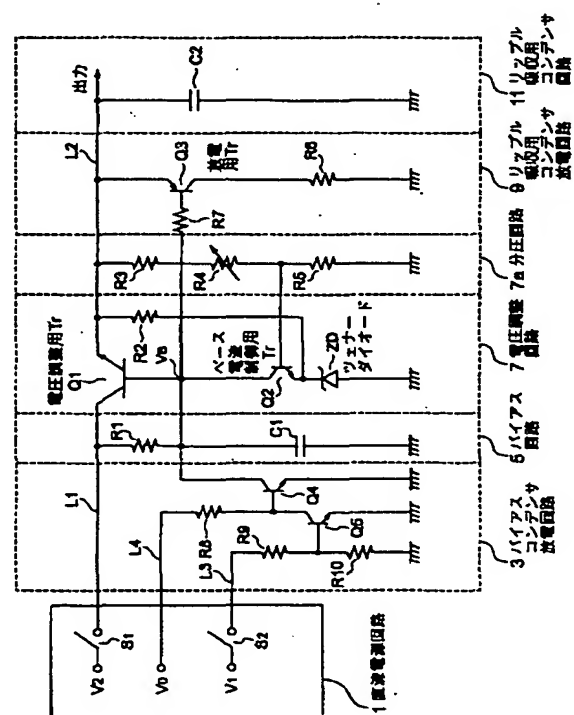
FF02 FF13 GG02 HH02 KK13

(54) 【発明の名称】 定電圧電源回路

(57) 【要約】

【課題】 リップル吸収用コンデンサを備えていても、出力の立ち下がり速度が速い定電圧電源回路を提供する。

【解決手段】 直流電源回路1のスイッチS1、S2がオンのとき、npnトランジスタQ1がオン状態になり、pnpトランジスタQ3がオフ状態になって、ラインL2から電源電圧V2より低い一定の電圧Vが出力される。ラインL2とアースとの間に設けたコンデンサC2は直流電源回路1の出力電圧のリップルを除去する。スイッチS1、S2がオフになると、トランジスタQ4がオン状態になってバイアス用コンデンサC1が放電し、npnトランジスタQ1がオフになるとともにpnpトランジスタQ3がオンになり、コンデンサC2の電荷が放電され、出力電圧の立ち下がり速度が速くなる。トランジスタQ4の導通開始時期は、抵抗体R9及びR10の抵抗値の設定により任意に定めることができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定の直流電圧を出力する直流電源回路と、前記直流電圧を該直流電圧よりも低い所望の一定電圧にして出力する電圧調整回路と、前記電圧調整回路の出力端子とアースとの間に配置されたリップル吸収用コンデンサとを具備する定電圧電源回路であって、前記直流電源回路の出力を停止するときに前記リップル吸収用コンデンサに蓄積された電荷を放電するリップル吸収用コンデンサ放電回路を具備することを特徴とする定電圧電源回路。

【請求項2】 所定の直流電圧を出力する直流電源回路と、前記直流電源回路の出力に一端が接続された抵抗体及び該抵抗体の他端に非接地端子が接続されたバイアス用コンデンサからなるバイアス回路及び前記抵抗体と前記コンデンサとの接続点にベースが接続され且つ前記直流電源回路にコレクターエミッタ回路が直列接続され電圧調整用トランジスタを含み、前記電圧調整用トランジスタの導通角を制御することにより、前記直流電圧を該直流電圧よりも低い所望の一定電圧にして出力する電圧調整回路と、前記直流電源回路の出力を停止するときに前記バイアス用コンデンサを短絡して該バイアス用コンデンサに蓄積された電荷を放電するバイアス用コンデンサ放電回路と、前記電圧調整回路の出力端子とアースとの間に配置されたリップル吸収用コンデンサとを具備する定電圧電源回路であって、前記直流電源回路の出力を停止するときに前記リップル吸収用コンデンサに蓄積された電荷を放電するリップル吸収用コンデンサ放電回路を具備することを特徴とする定電圧電源回路。

【請求項3】 前記リップル吸収用コンデンサ放電回路は、コレクターエミッタ回路が直接または電流制限素子を介して前記リップル吸収用コンデンサに並列接続した放電用トランジスタを含んでおり、前記放電用トランジスタのベースは直接または電流制限素子を介して前記抵抗体と前記コンデンサとの前記接続点に接続されている請求項2に記載の定電圧電源回路。

【請求項4】 前記電圧調整回路は、複数の抵抗体からなり、前記リップル吸収用コンデンサの両端電圧を分圧する分圧回路と、前記分圧回路の分圧点にベースが接続され、前記電圧調整用トランジスタのベースにコレクタエミッタ回路が接続されて前記電圧調整用トランジスタのベース電流を制御するベース電流制御用トランジスタと、前記ベース電流制御用トランジスタの前記コレクタエミッタ回路とアースとの間に配置されてアノードをアース側に向けたツェナーダイオードと、前記ツェナーダイオードのカソードと前記電圧調整回路の出力との間に配置された電流制限素子とからなる請求項2または3に

2

記載の定電圧電源回路。

【請求項5】 前記電圧調整用トランジスタと前記ベース電流制御用トランジスタはそれぞれnpnトランジスタからなり、前記放電用トランジスタはpnpトランジスタからなる請求項4に記載の定電圧電源回路。

【請求項6】 前記バイアス用コンデンサ放電回路は、前記バイアス用コンデンサに並列接続したトランジスタ回路を含み、前記トランジスタ回路は前記直流電源から出力される別の直流出力電圧が0に向かって低下する過程で導通状態になる請求項5に記載の定電圧電源回路。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は定電圧電源回路に関するものであり、特に直流電源回路からの出力を停止するときの、定電圧電源回路の出力電圧の立ち下がり特性を改善する技術に関するものである。

【0002】

【従来の技術】電子機器では多様な電子素子を使用され、その結果多様な直流電圧を出力する定電圧電源回路を必要とする。この種の定電圧電源回路では出力の直流にリップルを含むことが多いため、これを除去するために大きな容量のリップル吸収用コンデンサを用いている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前述の通り、直流電源回路から供給される電圧を用いて一定電圧を発生する定電圧電源回路では、直流電源回路からのリップルを除去するために定電圧電源の出力端子とアースとの間にリップル吸収用のコンデンサを設けて出力電圧の変動を抑えている。しかしながらこのような定電圧電源回路で直流電源回路の出力を停止するときには、リップルを除去するためのコンデンサに蓄積された電荷が放電されるまでに時間がかかるために、出力の立ち下がりに遅れが生じる問題がある。また複数種類の直流電圧を時間差を設けて立ち下げる場合に、前述の出力の立ち下がりの遅れが問題となる場合も多い。

【0004】本発明の目的は、リップル吸収用コンデンサを備えていても、出力の立ち下がりが速い定電圧電源回路を提供することにある。

【0005】本発明の他の目的は、電圧調整回路に含まれる電圧調整用トランジスタのバイアス回路に含まれるバイアス用コンデンサの放電とリップル吸収用コンデンサの放電とを同期させて、両者の放電を迅速に行うことができる定電圧電源回路を提供することにある。

【0006】本発明の他の目的は、少ない数のトランジスタで定電圧制御とコンデンサの放電とを確実に行える定電圧電源回路を提供することにある。

【0007】本発明の更に他の目的は、他の直流電圧の出力の停止時期よりも速く出力を停止することができる定電圧電源回路を提供することにある。

3

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明の定電圧電源回路は、直流電源回路と、電圧調整回路と、リップル吸収用コンデンサと、リップル吸収用コンデンサ放電回路とを備えている。直流電源回路は所定の直流電圧を出力する。電圧調整回路は直流電圧をより低い所望の一定電圧に調整して出力する。リップル吸収用コンデンサは電圧調整回路の出力端子とアースとの間に配置されて、直流電源回路から出力される電圧に含まれるリップルを除去する。リップル吸収用コンデンサ放電回路は、直流電源回路の出力を停止するときに、リップル吸収用コンデンサに蓄積された電荷を放電する。このような構成を採用すると、直流電源の停止時にリップル吸収用コンデンサを速やかに放電することができるので、出力の立ち下がりを速くすることができる。

【0009】本発明の他の定電圧電源回路は、直流電源回路と、バイアス回路と、電圧調整回路と、バイアス用コンデンサ放電回路と、リップル吸収用コンデンサと、リップル吸収用コンデンサ放電回路とを備えている。直流電源回路は所定の直流電圧を出力する。バイアス回路は直流電源回路の出力端とアースとの間に配置された、抵抗体とバイアス用コンデンサとの直列回路より構成される。

【0010】電圧調整回路は直流電源回路にコレクタエミッタ回路が直列接続され、ベースがバイアス回路を構成する抵抗体とバイアス用コンデンサの接続点に接続された電圧調整用トランジスタとを備えて、直流電圧をより低い所望の一定電圧として出力する。リップル吸収用コンデンサは電圧調整回路の出力端子とアースとの間に配置されて、出力電圧のリップルを吸収する。

【0011】直流電源回路の出力を停止するときには、バイアス用コンデンサ放電回路がバイアス用コンデンサを短絡してバイアス用コンデンサに蓄積された電荷を放電し、電圧調整用トランジスタをオフにするとともに、リップル吸収用コンデンサ放電回路がリップル吸収用コンデンサに蓄積された電荷を放電することにより、出力の立ち下がりを速くする。直流電源回路が複数種類の電圧を出力できる構成になっているときには、バイアス用コンデンサ放電回路の放電開始時期を、直流電源回路から出力される他の直流電圧の出力の停止をタイミングとして決定してもよい。特に、他の直流電圧の出力が所定の電位まで低下した後にバイアス用コンデンサ放電回路が、放電動作を開始するようにすると、2種類の直流電圧の出力の立下り時間に差を設けることができる。

【0012】リップル吸収用コンデンサ放電回路は、例えばリップル吸収用コンデンサに並列に接続した放電用トランジスタと電流制限素子との直列回路により構成することができる。この場合、放電用トランジスタのベースは直接または電流制限素子を介してバイアス回路の出力端子（抵抗体とバイアス用コンデンサとの接続点）に

4

接続する。このようにすると、直流電源の出力電圧が停止されるときに、まずバイアス用コンデンサ放電回路によりバイアス用コンデンサが放電されて、次にリップル吸収用コンデンサ放電用のトランジスタがオンになり、リップル吸収用コンデンサが放電を開始する。このようにバイアス用コンデンサ放電回路と同期してリップル吸収用コンデンサ放電回路が動作するので、出力の立ち下がりを確実に速めることができる。

【0013】より具体的な電圧調整回路は、複数の抵抗体からなり、リップル吸収用コンデンサの両端電圧を分圧する分圧回路と、この分圧回路の分圧点にベースが接続され、電圧調整用トランジスタのベースにコレクタエミッタ回路が接続されて電圧調整用トランジスタのベース電流を制御するベース電流制御用トランジスタと、ベース電流制御用トランジスタのコレクタエミッタ回路とアースとの間に配置されてアノードをアース側に向けたツェナーダイオードと、ツェナーダイオードのカソードと電圧調整回路の出力との間に配置された電流制限素子とから構成される。このような電圧調整回路では、ベース電流制御用トランジスタが導通すると、ツェナーダイオードのカソード電位が一定の値に固定される。その結果、ベース電流制御用トランジスタのベース電位がツェナーダイオードのカソード電圧にベース電流制御用トランジスタのエミッタベース間電圧を加算した一定値に固定される。すると電流制御用トランジスタのベース電位とアースとの間に接続された電流制限素子に一定電流が流れ、その一定電流が電流制御用トランジスタのベースと電圧調整回路の出力との間に配置した電流制限素子間を流れて一定電圧を発生し、その一定電圧と電圧調整用トランジスタのベース電位とが加算された電圧が電圧調整回路の一定電圧出力として出力される。

【0014】また電圧調整用トランジスタとベース電流制御用トランジスタとはそれぞれnpnトランジスタからなり、放電用トランジスタはpnpトランジスタで構成されている。このようなトランジスタを用いると、電圧調整用トランジスタがオン状態になっているときは放電用トランジスタが必ずオフ状態になり、電圧調整用トランジスタがオフ状態になっていると必ず放電用トランジスタがオン状態になる動作状態を簡単に実現できる。

【0015】

【発明の実施の形態】以下図面を参照して、本発明の定電圧電源回路の実施の形態の一例について説明する。図1は、本発明の実施の形態の一例の構成を示す回路図である。同図において、1は所定の複数種類の直流電圧（ $V_0 < V_1 < V_2$ ）を出力する直流電源回路であり、3は後述するバイアス回路のバイアス用コンデンサC1を放電するバイアスコンデンサ放電回路である。バイアスコンデンサ放電回路3は、直流電源回路1の出力が停止されたときに、バイアス用コンデンサC1に蓄積された電荷を放電する。5は電圧調整回路7のトランジスタ

5

Q1のベース及びリップル吸収用コンデンサ放電回路9のトランジスタQ3のベースへのバイアス電圧を発生するバイアス回路である。電圧調整回路7は、直流電源回路1から出力された直流電圧V2をこの直流電圧V2よりも低い所望の一定電圧に調整して出力する回路である。リップル吸収用コンデンサC2は電圧調整回路7の出力端子とアースとの間に配置されている。リップル吸収用コンデンサ放電回路9は、直流電源回路1から出力される直流電圧V1の出力が停止される過程で、リップル吸収用コンデンサC2を放電する。

【0016】以下に各ブロックの内部構成を説明する。直流電源回路1はV0、V1、V2（但し $V0 < V1 < V2$ ）の3種類の直流電圧を出力するように構成された公知の回路である。電圧V2を出力する回路は、スイッチS1を介して電圧調整回路7のラインL1に接続される。電圧調整回路7は、この電圧V2を電圧V2よりも小さい電圧Vに変換して出力のラインL2に出力する。電圧V1を発生する回路は、スイッチS2を介してバイアスコンデンサ放電回路3のラインL3に接続される。基準電源電圧V0を発生する回路は、バイアスコンデンサ放電回路3のラインL4に接続されている。

【0017】バイアスコンデンサ放電回路3はトランジスタQ4及びQ5と抵抗体R8、R9、R10とから構成されている。直流電源回路1からは、電圧V1がスイッチS2を介してラインL3を経て抵抗体R9とR10とに印加されている。ラインL3とアースとの間にある抵抗体R10及びR11の接続点はトランジスタQ5のベースに接続されている。そしてトランジスタQ5のエミッタは接地されている。トランジスタQ5のコレクタは抵抗体R8を介してラインL4に接続され、またトランジスタQ4のベースに接続されている。トランジスタQ4のエミッタは接地されている。

【0018】バイアス回路5は、抵抗体R1とコンデンサC1とからなり、これらの素子の接続点はバイアスコンデンサ放電回路3のトランジスタQ4のコレクタに接続されている。また抵抗体R1とコンデンサC1との接続点は、電圧調整用トランジスタQ1とリップル吸収用コンデンサ放電回路9の放電用pnpトランジスタQ3のベースに接続されている。

【0019】電圧調整回路7は、電圧調整用トランジスタQ1と、ベース電流制御用のnpnトランジスタQ2と、抵抗体R2、R3、R4、R5とツェナーダイオードZDとから構成されている。電圧制御用トランジスタQ1のコレクタがラインL1に、エミッタがラインL2に、ベースがベース電流制御用トランジスタQ2のコレクタにそれぞれ接続されている。電圧制御用トランジスタQ1のベースは、バイアス回路5の抵抗体R1とC1との接続点に接続され、この接続点にはバイアスコンデンサ放電回路3のトランジスタQ4のコレクタが接続されている。ベース電流制御用トランジスタQ2のエミッタ

6

は、ツェナーダイオードZDのカソードに接続され、また抵抗体R2を介してラインL2に接続されている。ツェナーダイオードZDのアノード端子は接地されている。

【0020】分圧回路7aは抵抗体R3、R4及びR5で構成されている。抵抗体R4とR5との接続点には、ラインL2とアースとの間の電圧を分圧した電圧が現れ、この分圧した電圧がベース電流制御用トランジスタQ2のベースに印加される。見方を変えると、この分圧回路7aは、ラインL2の電圧を検出する電圧検出回路を構成している。

【0021】リップル吸収用コンデンサ放電回路9は、pnpトランジスタQ3と抵抗体R6及びR7とから構成される。放電用のpnpトランジスタQ3のエミッタはラインL2に接続され、コレクタは抵抗体R6を介して接地されている。またpnpトランジスタQ3のベースは、抵抗体R7を介して電圧調整用トランジスタQ1のベース及びバイアス回路5の抵抗体R1とコンデンサC1の接続点、バイアスコンデンサ放電回路3のトランジスタQ4のコレクタにそれぞれ接続されている。リップル吸収用コンデンサ回路11は、ラインL2とアースとの間をつなぐリップル吸収用コンデンサC2から構成されている。

【0022】直流電源回路1のスイッチS1、S2がともにオン状態にあり、直流電源回路1から電圧V0、V1、V2が出力されている定常状態における回路の各部の電位について説明する。電圧調整用のnpnトランジスタQ1と放電用のpnpトランジスタQ3とのベースはほぼ共通の電位にある。またこれらの2つのトランジスタのエミッタがラインL2に接続されており、ラインL2の電位をVとする。ここで共通のベース電位VBが、ラインL2の電位Vより高く電圧調整用のnpnトランジスタQ1がオン状態（導通状態）にあるときには、放電用のpnpトランジスタQ3はオフ状態にある。またトランジスタQ1がオフ状態（非導通状態）になるときは、放電用のpnpトランジスタQ3はオン状態になる。

【0023】スイッチS2がオン状態になって電圧V1が抵抗体R9と抵抗体R10の直列回路に印加された状態では、バイアスコンデンサ放電回路3のトランジスタQ4はオフ状態にあるので、トランジスタQ1のベース電位はバイアス回路4の抵抗体R1からベース電流制御用トランジスタQ2の電流パスで決まる電位にあり、抵抗体R1の電圧降下を差し引いたレベルにある。このときにnpnトランジスタQ1はオン状態にあり、トランジスタQ1はラインL1からL2への電流増幅の働きをしている。電源投入瞬時（スイッチS2の投入の瞬間）には、ラインL2の電位Vは電圧調整用のnpnトランジスタQ1のベース電位からエミッターベース間の電圧降下を差し引いた電位になっている。

7

【0024】しかしスイッチS2の投入の瞬間に一時的に高くなったラインL2の電位Vは、電圧検出回路として機能する分圧回路7aの分圧点から供給されるベース電流によってトランジスタQ2が導通し且つツェナーダイオードZDが導通すると、電圧V2よりも低い一定の電圧に調整される。分圧回路7aの分圧点は、ツェナーダイオードZDのツェナー電圧VZDとトランジスタQ2のベース-エミッタ間の電圧VEB2とが加算された電圧で一定となり、抵抗R5に流れる電流Iが定電流となる。この電流は分圧回路7aの抵抗R3、R4より流れ込むために、抵抗R3、R4に流れる電流はほぼ抵抗R5に流れる電流Iと等しく、ラインL2の電位Vは $(VZD + VEB2) + I(R3 + R4)$ で決定され、一定の値となる。

【0025】このときリップル吸収用コンデンサC2を放電する放電用のpnpトランジスタQ3のベース電位(VBに等しいとみなす)は、ラインL2の電位Vに対して高い電位にあり、放電用pnpトランジスタQ3はオフの状態にある。

【0026】以上のような状態で直流電源回路1からの出力電圧V2に時間的に変化するリップルが加わっても、リップル吸収用コンデンサC2で平坦化または整流が行われ、出力にはリップルが現れなくなる。

【0027】次に直流電源回路1の出力V1及びV2を停止する場合について説明する。スイッチS1、S2が同時にオフ状態になった後にラインL1、L2の電位が0電位になるまでの放電の過程を説明する。まずスイッチS2がオフ状態になると、トランジスタQ5がオフ状態になってトランジスタQ4がオン状態となり、そのコレクタ電位、つまりトランジスタQ1のベースの電位VBが0に近づき、電圧調整用トランジスタQ1がオフになる。このような状態になると、pnpトランジスタQ3がオンになってリップル吸収用コンデンサC2が放電し、ラインL2の電位Vが短い時間で0電位に近づく。

【0028】以上のタイミングシーケンスをより詳しく説明する。直流電源回路1のスイッチS1、S2が同時にオフになると、バイアスコンデンサ放電回路3のトランジスタQ5のベース電位が0に近づき、トランジスタQ5のコレクタがハイレベルになるのでトランジスタQ4はオン状態になる。その結果トランジスタQ4のコレクタ-エミッタ回路を通してコンデンサC1の電荷を放電して、トランジスタQ4のコレクタ電位は最終的に0になる。そしてnpnトランジスタQ1と放電用のpnpトランジスタQ3のベース電位VBが0に落ち、npnトランジスタQ1がオフになり、pnpトランジスタQ3がオンになる。npnトランジスタQ1がオフ状態になると、ラインL2はラインL1から遮断される。また大きなリップル吸収用コンデンサC2に蓄積された電荷は、放電用のpnpトランジスタQ3のコレクタエミッタ回路及び抵抗R6を通して短い時間で放電され

8

る。リップル吸収用コンデンサC2の放電のパスは3つある。つまり抵抗R2とツェナーダイオードZDのパス、抵抗R3、R4、R5を通過するパス、放電用pnpトランジスタQ3と抵抗R6のパスである。もし放電用のpnpトランジスタQ3のパス、即ちリップル吸収用コンデンサ放電回路9がなければ、抵抗R3、R4、R5を含むパスだけが放電回路になる。しかしながら抵抗R3、R4、R5からなる分圧回路7aは、電圧検出回路を構成するものであるため、その回路のインピーダンスは大きい。そのため、この分圧回路7aでリップル吸収用コンデンサC2の放電を行うと、トランジスタQ4がオン状態になってコンデンサC1が放電を開始してからその放電が完了しても、リップル吸収用コンデンサC2の放電が完了しないため、出力電位Vの立下りが遅くなる。しかしながらこの例では、pnpトランジスタQ3と抵抗R6とからなる放電回路9のインピーダンスを他のパスのインピーダンスよりも十分に小さくしてあるため、コンデンサC2の電荷の大部分は、オン状態になったpnpトランジスタQ3と抵抗R6とを通して短い時間で放電される。そのため出力の立下りが速くなる。

【0029】バイアスコンデンサ放電回路3は、出力Vが直流電源回路1の他の出力電圧V1よりも速く立ち下がることを可能にしている。すなわちバイアスコンデンサ放電回路3はリップル吸収用コンデンサC2の放電開始時期を決定する。スイッチS1、S2がオン状態にあるときにトランジスタQ5が導通状態になるように抵抗R9、R10の抵抗値は設定されている。スイッチS2がオフになってラインL3の電位が低下し、抵抗R9と抵抗R10との間の分圧点の電位が0.8Vより低下すると、トランジスタQ5は直ちにオフ状態になる。するとトランジスタQ4のベース電位は直ちに5Vに上昇し、トランジスタQ4がオン状態になって、コンデンサC1の放電が開始され、トランジスタQ4のコレクタ電位は0に近づく。その結果、トランジスタQ1、Q3のベース電位が低下し、トランジスタQ3がオン状態になってコンデンサC2が放電される。このように抵抗R9と抵抗R10との抵抗値の設定により、トランジスタQ4のオフまたは遮断タイミングを決定することにより、スイッチS2がオフ状態になった後(直流電圧V2の出力が停止された後)にラインL3の電位が0になるまでの任意の時間内で、トランジスタQ3の導通開始時期を決定することができる。その結果、出力電位Vの立下りを電圧V1の立下りよりも速くすることができる。

【0030】次に直流電源回路1のスイッチS1、S2がオンの状態に切り替わって、ラインL1とラインL2とが0の電位から所定の電位に到達するまでの経過を説明する。スイッチS2がオン状態になると、トランジスタQ5がオン状態となってトランジスタQ4がオフにな

10

20

30

40

50

9

る。ラインL1の電位VL1はすぐに電源の電圧V2に上昇する。しかしバイアス回路のバイアス用コンデンサC1と抵抗体R1との接合点の電位は、コンデンサC1と抵抗体R1とにより定まる時定数でラインL1の電位VL1(V2)に向かって上昇する。これにより電圧調整用npnトランジスタQ1と放電用pnpトランジスタQ3のベース電位が上昇し、電圧調整用npnトランジスタQ1がオンになり、放電用pnpトランジスタQ3がオフになる。その結果ラインL2に電位Vが現れる。この電位Vが、一定の電圧に調整される動作は前述の通りである。このようにこの回路では、バイアス用コンデンサC1があるために、電位Vの立ち上がりを遅れることになるが、特に支障はない。

【0031】

【発明の効果】本発明によれば、出力電圧のリプルを除去するためのリプル吸収用コンデンサがあっても、リプル吸収用コンデンサ放電回路を設けてこのコンデンサに蓄積された電荷を短い時間で放電するため、出力

10

の立下りを速めることができる。またリプル吸収用コンデンサ放電回路をバイアスコンデンサ放電回路と同期させて動作させるため、出力の立ち下がりを実際に早めることができる。更に、他の直流電圧の出力の停止をタイミングとして出力を停止させる場合に、他の直流電圧の出力の立下りよりも、出力の立下りを速くすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の定電圧電源回路の実施の形態の一例の構成を示すブロックである。

【符号の説明】

- 1 直流電源回路
- 3 バイアスコンデンサ放電回路
- 5 バイアス回路
- 7 電圧調整回路
- 7a 分圧回路
- 9 リプル吸収用コンデンサ放電回路
- 11 リプル吸収用コンデンサ回路

【図1】

